

Japan Beverage

Japan Beverage Report 2016



人に、街に、地球にうるおいを





- 01 編集方針
- 02 ジャパンビバレッジグループの概要
- 03 トップメッセージ
- 05 ジャパンビバレッジグループの事業紹介

07 **特集1・・・グリーン・オペレーション 品質管理**

徹底した品質管理のもと、お客様に安全・安心をお届けします

09 **特集2・・・グリーン・オペレーション 自動販売機オペレーション**

安全に訪問、安心なサービスを皆様に提供します

11 **特集3・・・グリーン・オペレーション 廃棄物削減・リサイクル**

廃棄物削減・リサイクルにより循環型社会を形成します

13 **特集4・・・各地域での活動**

地域に根ざした独自の活動を進めています

15 **特集5・・・JB 環境ネットワーク会**

JB環境ネットワーク会の取組み

16 環境マネジメント&パフォーマンス報告

18 第三者意見



編集方針

本レポートは、ジャパンビバレッジグループの理念と事業の現状、および環境の取組みを紹介する会社案内と環境報告書の役割を果たします。ステークホルダーの皆様に分かりやすくお伝えすることを目的に発行しています。

● **参考ガイドライン**
環境報告ガイドライン2012年版

● **報告対象範囲**
ジャパンビバレッジグループ
※環境報告データの対象範囲が異なる場合は、
範囲を別途記載しています。

● **報告対象期間**
2015年1月1日～
2015年12月31日
※一部、対象期間外の取組みも紹介しています。

● **発行**
2016年6月
(次回2017年5月予定)

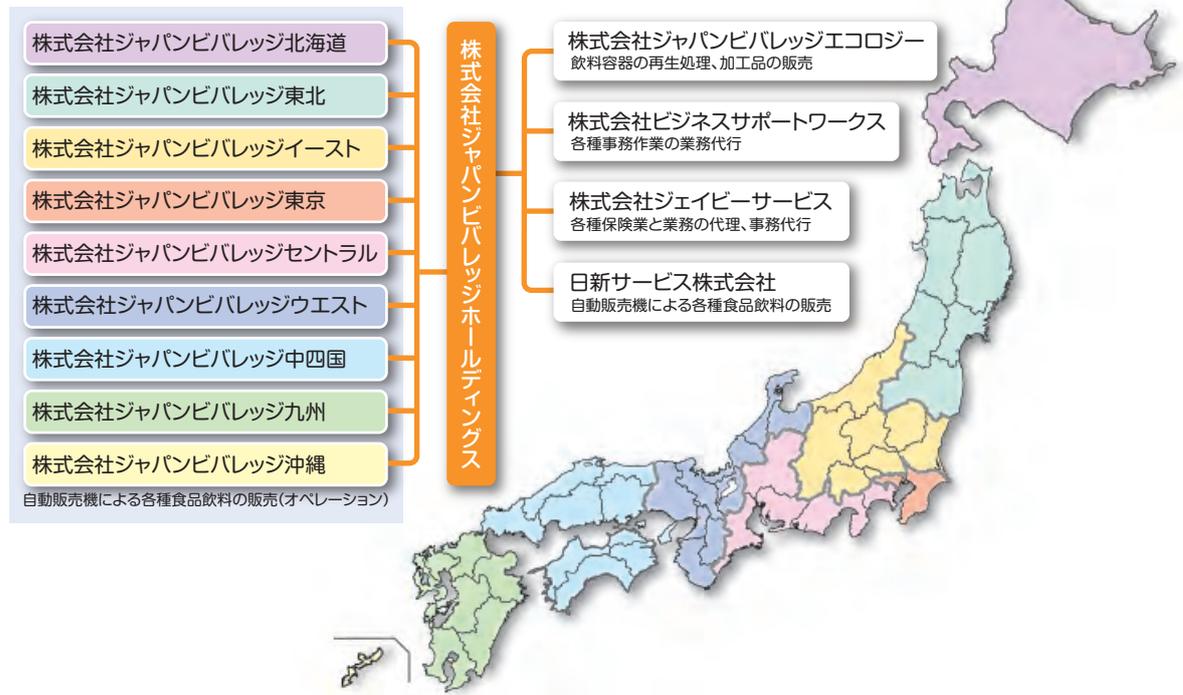
ジャパンビバレッジグループの概要

ジャパンビバレッジホールディングスの事業概要

社名 株式会社ジャパンビバレッジホールディングス
 本社 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号 エステック情報ビル
 創業 1958年7月 ※組織改編に伴い、2010年7月ジャパンビバレッジホールディングスを設立
 資本金 5億円
 事業内容 グループ全体の経営戦略の策定・推進
 自動販売機による各種食品飲料の販売



ジャパンビバレッジグループ



ジャパンビバレッジグループは“



自動販売機専門オペレーターNo.1の自負

ジャパンビバレッジグループは1958年に東京で自動販売機専門オペレーターとして創業し、現在では北は北海道から南は沖縄まで全国で26万台の自動販売機を運営させていただいております。

この間、自動販売機の他にも給茶機やオフィスコーヒーによるリフレッシュ空間のご提案、企業内有人売店の運営など、お客様のご要望にお応え出来るように様々な事業展開をしております。

長い歴史の中にはオイルショックやバブル崩壊、またリーマンショックなど数多くの事業活動上の困難が

ございましたが、そのような状況を乗り越えて来られましたのも一重に当社をご支持頂きました皆様のお力添えがあったからに他なりません。この場をお借り致しまして皆様に厚く御礼申し上げます。

便利で美味しいとっていただくために

昨年は“コーヒーをもっと便利に、もっと美味しく、より省エネに、より省スペースで”をコンセプトに「Smart Café（スマートカフェ）」を展開致しました。従来機と比べコンパクトサイズ（当社比）で、コーヒー豆を

感動”を創造します

経営理念

私たちは、魅力ある商品と最高のサービスを通じて人々に潤いを提供し、喜びに満ちた空間と出逢いを創造します。

モットー

1. 「いちばん」を大切にします。

業界No.1のサービスと業績を目指します。

2. 「もっと」を大切にします。

明日はどうすれば、今日よりもっとよくなるかを考え、行動します。

3. 「ちゃんと」を大切にします。

ちゃんとした管理・サービス・行動により高品質を維持し、信頼と安全をお届けいたします。

4. 「やさしさ」を大切にします。

環境にやさしく、地域社会に歓迎されるよう努力を惜しみません。

5. 「あなた」を大切にします。

喜びの創造に向け、“活き活き”とした魅力ある職場をつくります。

ジャパンビバレッジグループのグリーン・オペレーション

提案 販売 回収 適正処理 資源再生

をトータルでコーディネートしています。

お客様のニーズにあわせた各種自動販売機をご提案します。

オペレーションに使用する車輛は、低公害車・ハイブリッド車を計画的に導入しています。



回収した飲料空容器は、「リサイクル・プラザJB」をはじめ、全国のネットワーク企業でリサイクルを実施しています。



自動販売機の横に設置している「回収ボックス」の中の飲料空容器をきちんと回収し、支店に持ち帰ります。

その場で1杯毎に挽いた本格レギュラーコーヒーをホット飲料とアイス飲料の両方で楽しめると大変ご好評をいただいております。

いつもお客様のそばにいるジャパンビバレッジ

私たちジャパンビバレッジグループは「魅力ある商品と最高のサービスを通じて人々に潤いを提供し、喜びに満ちた空間と出逢いを創造する」を経営理念として事業活動しております。

それはお客様の声に耳を傾け、自動販売機や給茶機、コーヒーサーバー機などの様々なサービスツール

の開発はもとより、安全・安心な商品をご提供することでもあると考えます。「ジャパンビバレッジを選んで良かった」とご満足いただくため、従業員5,100名の一人ひとりがお客様一人ひとりにしっかり向き合えるよう、人材育成、体制の強化をはかってまいります。今後も末永いご支援、ご愛顧を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

株式会社ジャパンビバレッジホールディングス

代表取締役社長 西宮 佐二

ジャパンビバレッジグループの事業紹介

ジャパンビバレッジグループは、業界No.1の自動販売機専門オペレーターとして、お客様のご希望にお応えできるよう、様々な自動販売機、ティーサーバー・コーヒーサーバー等のリテール機器を取扱っています。目的・シチュエーションに合わせ、潤いとホッとできるひとときをご提案します。

オフィスで

休憩時間やリフレッシュしたい時に。



リテー

オフィスでの休憩に欠かせないティーサーバー（自動粉末給茶機）やコーヒーサーバーを取扱っています。

ジャパンビバレッジがオリジナルで開発したティーサーバーは、職場に適したデザインにバラエティ豊かな商品をラインナップ（お茶、コーヒー、

病院 や 薬局で

診察や調剤の待ち時間に。



カップ 自動販売機事業

今人気のレギュラーコーヒーを提供できるカップ自動販売機。スリムなデザインで人気の「Smart Café」は、オリジナルブレンドの豆で美味しいコーヒーを提供、また省エネにも配慮したジャパンビバレッジのオリジナルカップ自動販売機です。

また、商品構成も季節ごとに変更することで、バリエーション豊かなカップ飲料を皆様に提供します。



カップ機



Smart Café®



ル事業

紅茶、機能性飲料など。
 ティーサーバーの稼働を制御する省エネタイマーを搭載。消費電力を抑える設定もできます。MDS-S13型ティーサーバーは、環境負荷低減のため業界初のCO₂冷媒(ノンフロン)を採用しています。



MDS-K13 MDS-S13

ショッピングモール

お買いものの途中に。



パッケージ 自動販売機事業

春・夏・秋・冬の季節に合わせた各種飲料メーカーの人気商品を取りそろえ、お客様先の要望と業態に合わせた商品構成を提案しています。

また、お菓子や食品の自動販売機をあわせて設置することで、オフィスや職場に休憩スペースを実現することも可能です。



コンビニ機 食品自動販売機 紙バック機

学校

校内活動の合間に。



事業紹介



徹底した品質管理のもと、 お客様に安全・安心を お届けします

ジャパンビバレッジは、飲料や食品を扱う事業者として巡回時に行う日常衛生管理、専門職による定期衛生管理「サニテーション」および賞味期限の管理に取り組んでいます。

品質管理への取組み体制

お客様に安全で信頼される飲料・サービスを提供するため、品質管理についての手順の構築、教育を実施しています。

FSQMの構築

ジャパンビバレッジ独自の食品安全・品質管理システム「FSQM」(Food Safety And Quality Control Management System)を構築、PDCAの実施により品質管理体制のさらなる向上へ取り組めます。

教育

スキル向上、業務水準統一のため研修・講習会を実施。
(管理者研修、日常衛生管理作業講習会など)

分析

お客様からの品質管理に関するご指摘事項への改善対応を実施。
また、改善後は分析を行い適切な処置ができるよう、さらなる改善を図ります。



食品安全・品質管理システム「FSQM」



日常衛生管理作業講習会

担当者の声

安全・安心な商品をお客様に提供するために

近年、「食の安全」への関心が高まる中、ジャパンビバレッジでも様々な食に関するご指摘が寄せられています。品質管理課では発生したご指摘事例について細部に及ぶ情報収集と内容分析を行い、再発防止に向けた具体的実施策を作成し現場に実施の徹底を図っています。また、2016年度は日常衛生管理の重要性及び作業手順・実施方法について適切な指導を行う「日常衛生管理作業講習会(座学・実技)」も開催しています。グループ全体の食品安全・品質管理方針を周知徹底し、安心な商品をお客様にご提供できるよう社員の皆さんと一緒に取り組んでまいります。



株式会社ジャパンビバレッジホールディングス 機材部 品質管理課 課長 島村 照章

ジャパンビバレッジ独自の取組み 「サニテーション」

カップ自動販売機は通常巡回時の清掃、商品管理等の日常衛生管理に加え、年1回「サニテーション」を行っています。

インスペクションチェック

サニテーション実施前に自動販売機の評価（インスペクションチェック）を行います。自動販売機の外観、周辺、衛生管理、味覚等の項目をチェック。改善事項がある場合は報告し、早急に対応を実施します。



自動販売機内部サニテーション

自動販売機内部の部品を清掃します。

- 製氷機内の洗浄・消毒
- ホース類分解・交換/洗浄・消毒
- 部品の分解・洗浄・消毒



原料吐出量確認・味覚確認

適正な味を保っているかどうか、全ての飲料の吐出量チェックを行います。



検体検査

衛生管理状況の確認のため、検体検査を実施しています。



担当者の声

品質管理担当者としてできること

自動販売機のサニテーションは品質管理のために大切な業務になります。一方、作業中は自動販売機を一時的に停止するので、その間飲料の販売ができません。そこで毎日の作業を行う際に考えていることは「創意工夫」です。効率良く作業を行うにはどうしたらよいか。そのためのアイデアが浮かぶと実行に移し、効率を上げるために作った作業グッズは何点にもなります。

また、サニテーション中にお客様に見学いただいたり、ご質問を頂戴する場合もあります。その際、作業内容を説明させていただくことで品質管理の取組みをお客様に知っていただいています。少しでも自動販売機のPRIにつながれば、という思いで実施しています。



株式会社ジャパンビバレッジイースト 企画部 企画課 課長 五嶋 秀幸

特集

2

安全に訪問、 安心なサービスを 皆様に提供します

お客様を訪問する際は、安全運転・エコドライブにて訪問します。自動販売機のオペレーションには「ユニット制」を採用し、オペレーションの品質向上を図っています。

ユニット制の取組み

自動販売機オペレーションの運営体制には、10名前後で構成する「ユニット制」を導入しています。ユニットは、管理監督職が担当するユニットリーダーとルートセールスで構成。各ユニットごとにルートセールスへの教育、お客様とのコミュニケーションなどに取組み、オペレーションの品質向上を図っています。



広島支店 三浦ユニットの皆さん

各社代表ユニットリーダー会議・表彰式の実施

2016年2月17日各社代表ユニットリーダー会議を実施しました。グループ各社から選出されたユニットリーダーが会議に参加。1年間のユニット内での取組み（前年と比較し深化した事、チームでの取組み事例、今後の目標など）を発表します。発表後、審査を行いベスト3を決定。表彰も行っています。



ユニットリーダー表彰



2015年度各社代表ユニットリーダー会議

担当者の声

ユニット制により一人ひとりの成果をあげています

「現場に答えはある」の精神で、より現場を把握しお客様のご要望を知る事で、「攻めこそ最大の防御」となるような提案がスピード感をもって出来るよう取組んでいます。

日々のユニットミーティングでは、メンバー全員で成果を喜んだり、課題について考え、皆で情報共有することで、モチベーションの向上、活気が生まれています。

「笑顔で挨拶」を大切にお客様と積極的に接する事で、判断力・センスが磨かれるよう日々の業務に励んでおります。



2015年度各社代表ユニットリーダー会議 第1位 株式会社ジャパンビバレッジ中四国 広島支店 アシスタントスーパーバイザー 三浦 保宏

安全運転への取組み 安全推進委員会

車輛は、自動販売機のオペレーションや営業訪問時に必要不可欠です。ジャパンビバレッジは、事故なくお客様先を訪問するため安全運転、事故ゼロを目指し取組んでいます。

年5回開催される安全推進委員会では、グループ各社から安全運転責任者が参加。各社の取組み事例発表や、最新情報の共有、事故内容の分析・討議等を実施します。委員会で得られた情報は各社の安全運転の取組みに活かされています。

また、事故ゼロポスターや毎月発行する「交通安全だより」によって全社的な啓蒙活動も行っています。



交通安全だより



安全推進委員会の様子

各社の取組み 株式会社ジャパンビバレッジウエスト

ジャパンビバレッジウエストでは全支店で毎月車輛講習を行っています。講習の内容は、各支店ごとに毎月実施する内容を独自に決定し、車輛を使用する実車講習もしくは座学講習で行っています。また、危険予知などに関する車輛テストも行っています。

毎月継続して実施することで、安全運転の徹底を図っています。



実車講習の様子

奈良支店の講習事例

実車による講習で、駐車・発進・乗降車時の安全確認を実施しました。まず講師が運転姿勢、降車時の死角の確認、乗車時の車輛一周確認、停車時ミラーの確認などの実演と説明を行い、その後1人ずつ実際にやってみます。この講習内容が身についているかどうかは、車輛テストや同乗時に確認しています。

また、車輛をきれいに保つことが運転の基本と考え、毎朝出発時には車輛の「顔」でもある前面をきれいに拭いて送り出しています。



発進時の確認説明



出発時車輛を拭いて送り出し

缶・ビン・ペットボトル再資源化工場 リサイクル・プラザJB

飲料空容器の循環型産業の構築を実現するために2003年5月に設立したリサイクル・プラザJB。年間約7,600tの缶・ビン・ペットボトルのリサイクルを実施しています。リサイクルの様子をご覧いただける工場見学も実施しており、年間約1,300人の皆様にお越しいただいています。



工場外観



工場見学の様子

空容器の入っていたポリ袋を輪留めにリサイクル

缶・ビン・ペットボトルが入っていたポリ袋も、無駄にすることなくリサイクルしています。リサイクル・プラザJBは使用済みポリ袋を圧縮加工した後、株式会社三興様に搬入。輪留めなどのリサイクル製品になっています。この輪留めは、ルートセールスが使用するトラックでも使用されています。



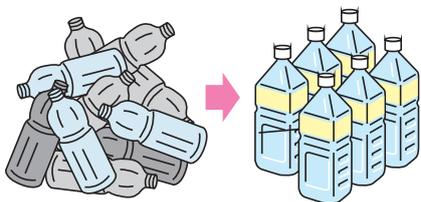
ポリ袋をリサイクルした輪留め



ルートセールスの車輻にリサイクル輪留めを使用(高崎支店)

ペットボトルからペットボトルへリサイクル

リサイクル・プラザJBのリサイクルフローを一部変更し、2016年度よりペトリファインテクノロジー株式会社様への搬入を開始しました。こちらでは、ペットボトルを化学的に分解してPET原料に戻し、再びPET樹脂を作る方法(PRT方式)により、ペットボトルからペットボトルに再生しています。ジャパンビバレッジが回収したペットボトルがまたペットボトルに生まれ変わる「水平リサイクル」が実現しています。



ペットボトルからペットボトルへの処理の流れ
(ペトリファインテクノロジー株式会社様資料)

特集

4

各地域での活動

地域に根ざした

独自の活動を 進めています

ジャパンビバレッジは、各地域・部署毎に独自の活動を行っています。
ここではその一例をご紹介します。

各地域での清掃活動の取組み

ジャパンビバレッジは各部署で地域の清掃活動に取り組んでいます。活動内容は、定期的な事業所近隣のゴミ拾いや清掃の実施。行政や地域団体が実施する清掃イベントにも参加をしています。

事業所近隣の環境美化、そして地域社会への貢献につなげていければという思いのもと取り組んでいます。



まるごと沖縄クリーンビーチへの参加
(株式会社ジャパンビバレッジ沖縄)



事業所の近隣清掃活動
(株式会社ジャパンビバレッジイースト日立支店)



四谷ゴミゼロデーへの参加
(株式会社ビジネスサポートワークス)



事業所の近隣清掃活動
(株式会社ジャパンビバレッジエコロジー)

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー(リサイクル・プラザJB)

工場・事務所の照明のLED化

リサイクル・プラザJBは、工場・事務所内の照明をLEDに交換しました。その結果、照明の電気使用量を約2/3削減することができました。

また、これまで工場内で使用していた水銀灯に比べ、照明器具の交換頻度が低くなるだけでなく、発光効率約1.5倍になり工場内がより明るく安全になりました。これからも明るい作業環境の中で従業員一同、リサイクル事業に取り組んでまいります。



交換前



交換後

株式会社ジャパンビバレッジ東京 八千代支店

お客様に喜ばれる 自動販売機をつくるために

お客様に喜ばれる商品をそろえ、かつ売切れを出さない自動販売機にするためにはどうすればよいか。ルートセールスは、自動販売機巡回時に売上データなどを見て随時対応を行っています。

八千代支店ではそのスキルを高めるための独自の研修を行っています。1台の自動販売機を例に、そのデータから改善する点がないか各自の考えをまとめ、皆で意見交換を行います。自分では気が付かなかったことや細かい改善点などが出てくるので、今後の巡回業務にもそれが活かされていきます。このように自動販売機の「PDCA」サイクルをまわして、より皆様に喜ばれる自動販売機を目指し今後も取組んでまいります。



意見交換の様子



朝出発前に定期的に研修

株式会社ジャパンビバレッジセントラル 横浜支店

全員参加の「良化プロジェクト」の取組み

横浜支店は、事業に関わる7つの重点事項（「食の安全」、「車輛事故撲滅」、「商品管理」など）について、より成果をあげるため、それぞれプロジェクトをつくり活動する「良化プロジェクト」を実施しています。毎月各プロジェクトで討議や講習などを実施し、その内容を支店全体に周知・啓蒙をしていきます。例えば「風紀接遇身嗜みプロジェクト」では、支店内の清掃を徹底するため「ゴミを拾おうキャンペーン」を立案したり、お客様先での挨拶を徹底するために、プロジェクトメンバーが率先して挨拶啓蒙を実施したりしています。全所員がいずれかのプロジェクトに所属し、「全員参加」で支店を盛り上げていけるように取組んでいます。



各プロジェクトで毎月討議を実施



「風紀接遇身嗜みプロジェクト」メンバー



JB環境ネットワーク会 JB環境ネットワーク会の 取組み

JB環境ネットワーク会とは

大手飲料事業者17社が会員となり、飲料空容器の循環型産業の構築と低炭素社会の実現を目的として発足した任意団体です。環境保全に関する調査研究および環境関連の知識・情報等の普及を図り、あらゆる環境保全活動を推進しています。

JB環境ネットワーク会 会員企業 17社	キーコーヒー株式会社	株式会社ドトールコーヒー
アサヒ飲料株式会社	キリンビバレッジバリューベンダー株式会社	ネスレ日本株式会社
アサヒグループ食品株式会社	サントリービバレッジソリューション株式会社	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
味の素ゼネラルフーズ株式会社	株式会社ジャパンビバレッジホールディングス	三井農林株式会社
大塚ウエルネスベンディング株式会社	東罐興業株式会社	株式会社明治
カゴメ株式会社	凸版印刷株式会社	UCC上島珈琲株式会社

(五十音順)

[事務局]株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

JB環境ネットワーク会 2015年度の取組み

●第5回「ぼくとわたしのリサイクル」作文コンクールの開催

リサイクル・プラザJBを見学いただいた小学生を対象とした作文コンクールを毎年開催しています。昨年実施した第5回コンクールでは、199通の作文を応募いただきました。



表彰式の様子

●シンポジウムの開催

JB環境ネットワーク会の目的の1つでもある環境関連の知識・情報の普及のため、沖縄にてシンポジウムを開催しています。沖縄県内で環境保全活動に取り組む団体や学校および一般の方々に参加いただき、活動発表や基調講演を実施しています。



名護市立小中一貫教育校屋我地ひるぎ学園による発表

●環境保全活動への支援

沖縄県内で環境保全活動に取り組む団体や学校への支援を行っています。

2015年度支援団体(支援内容)

- 名護市立瀬喜田小学校(学校図書館の本の充実)
- 本部町立瀬底小学校(自然観察のために使用するiPad)
- 沖縄クリーンコーストネットワーク(清掃活動費用)



沖縄クリーンコーストネットワーク

環境マネジメント & パフォーマンス報告

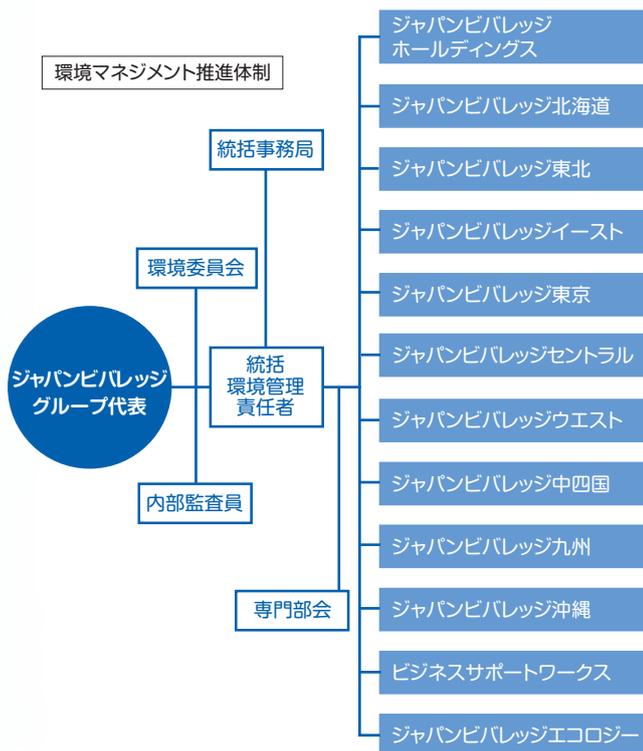
環境方針 (一部抜粋)

基本理念

ジャパンビバレッジグループは、地球環境が尊い資産であることを認識し社会に貢献する企業であり続けるために、事業及び社員一人一人の行動を通じ、あらゆる面での環境保全を積極的に推進し、潤いと喜びに満ちた持続可能な社会の創造を目指します。

≫ 環境マネジメントシステム

ジャパンビバレッジグループの環境マネジメントシステムを継続的に推進するため、組織、役割および責任を定めています。現在は、グループ12社の本社・支店の合計120サイトで運用を行っています。



※ジェイビーサービス、日新サービスは除く

≫ 廃棄物処理委託業者 現地確認

ジャパンビバレッジでは、廃棄物の発生から最終処分が終了するまでの一連の行程において、処理が適正に行われるよう処理委託業者の現地確認を毎年行っています。



現地確認の様子

≫ ISO14001更新審査

ジャパンビバレッジはISO14001の更新審査を2015年9月8～11日の日程で実施しました。120サイト中31サイトが審査を受け、認証継続が決定しました。



ISO14001更新審査の様子

≫ 環境研修の実施

2015年度の環境研修は毎年実施している「管理者研修」および「内部監査員研修」のほか、新任環境管理者27名に向けてISO14001の基礎的な内容で構成した、「新任管理者・監査員研修」を開催しました。



新任管理者研修

環境マネジメント & パフォーマンス報告

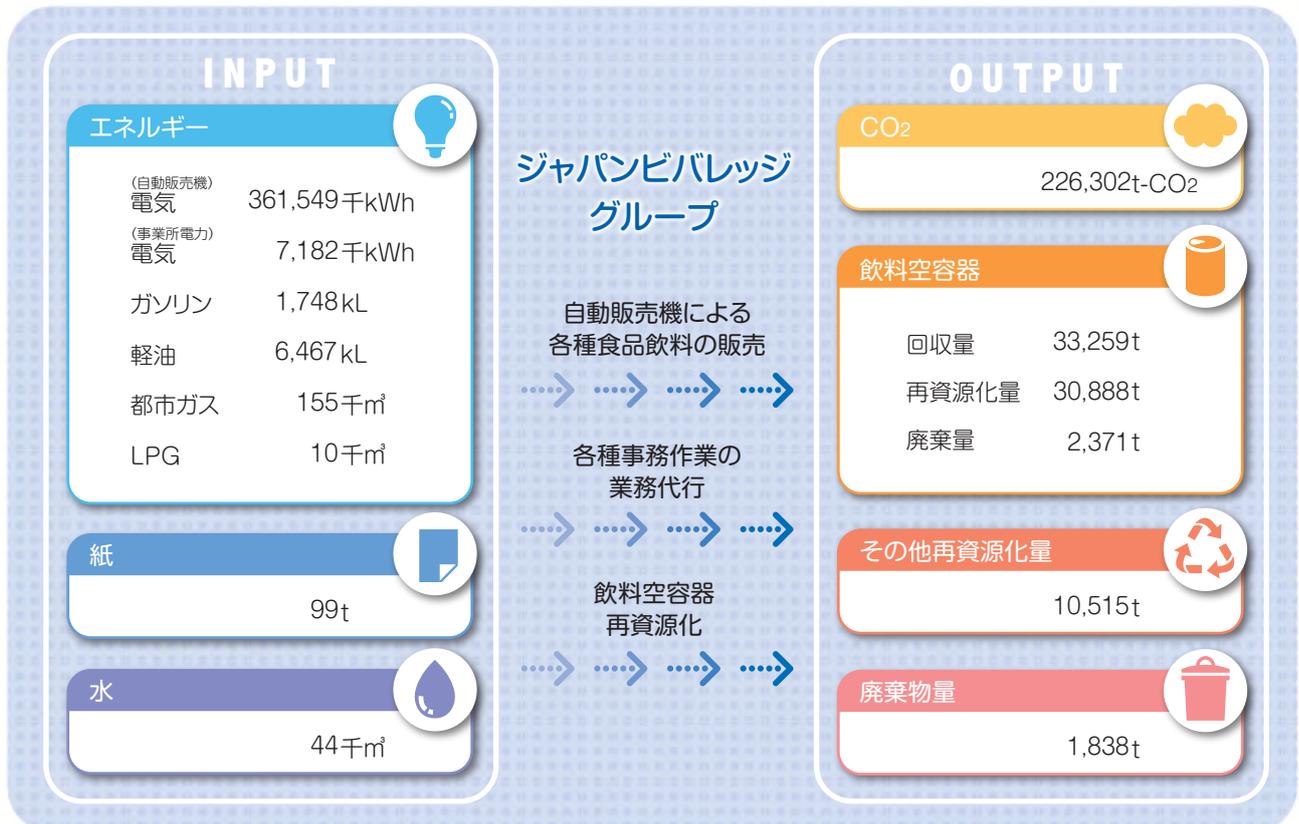
環境目標と実績

ジャパンビバレッジは、環境に配慮した事業活動「グリーン・オペレーション」を基本テーマに掲げ、環境活動を行っています。2015年度の環境目標には「自動販売機・給茶機1台あたりにかかるCO₂排出量の削減」「商品廃棄本数の削減」「車両燃費の改善」の3つを設定し、全社で取り組みました。

その結果、「商品廃棄本数の削減」「車両燃費の改善」は目標達成しましたが、「自動販売機・給茶機1台あたりにかかるCO₂排出量の削減」は未達成となりました。2016年度は目標達成できるよう、取り組み内容の精査と改善を図り実施してまいります。

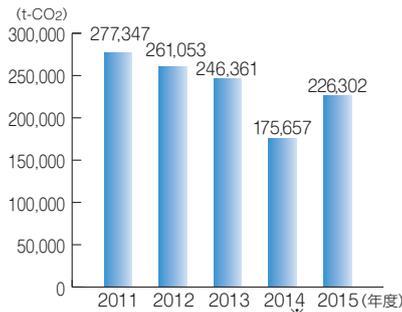
項目	目標値	目標達成率	評価
① 自動販売機・給茶機1台あたりにかかるCO ₂ 排出量(部署全体量)の削減	2013年度比10%削減	99.9%	×
② 商品廃棄本数の削減	2014年度比10%削減	128.2%	○
③-1 車両燃費の改善(ガソリン)	2014年度比1%改善	101.6%	○
③-2 車両燃費の改善(軽油)		101.0%	○

事業活動における資源投入量と排出量



(二酸化炭素の算出方法について)「地球温暖化対策の推進に関する法律」に基づく換算係数を適用

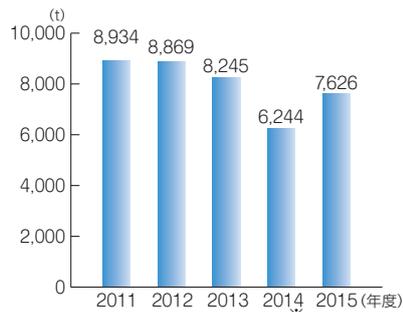
CO₂排出量推移



※2014年度は9か月間の数値となっております。

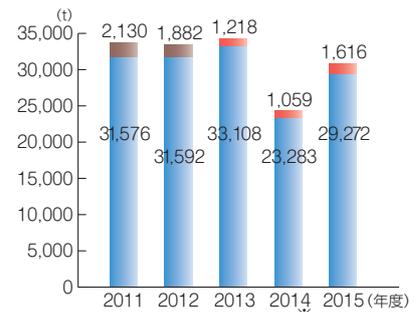
再資源化処理量推移

(リサイクル・プラザJB)



再資源化処理量推移

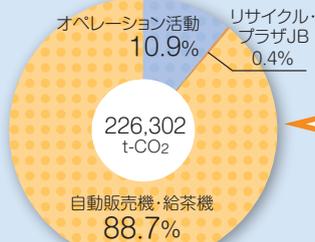
(リサイクル・プラザJBを含む)



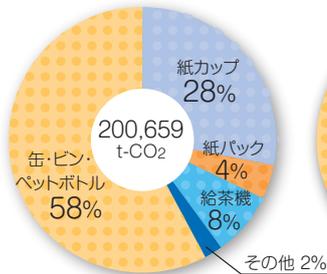
■ 缶、ビン、ペットボトル ■ 紙カップ、紙パック ※ ※2013年度より紙カップ、紙パックの再資源化量はサーマルリサイクルを除きます。

2015年度事業別CO₂排出量構成比

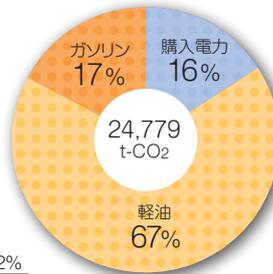
事業別CO₂排出量構成



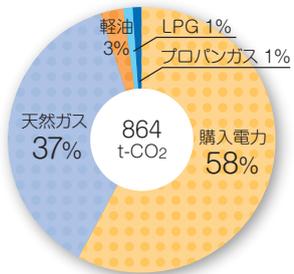
自動販売機・給茶機



オペレーション活動



リサイクル・プラザJB



● 第三者意見 ●



環境NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ
理事長 多田博之氏

Japan Beverage Report 2016は、5つの特集を中心として、20ページ以内のコンパクトなサイズで、読みやすさに力点が置かれていることがわかります。昨年のレポートからの継続性もあり、この体裁であれば広範なステークホルダーへの理解容易性が担保されていると思います。

今年は特集のうち2つが安全・安心を取上げていますが、いずれも環境と密接に関連

した領域であり、地味な分野ではありますが着実に継続して取組むことが、ビジネスを下支えすることにつながると考えます。

特集3では、商品廃棄本数の削減が目を引きました。廃棄物の適正処理以前に、廃棄物を発生させない、川上での努力と実践が重要であることは言うまでもありません。日本は残念ながら食品廃棄大国であり、そうした中で、「もったいない」の精神を貫き、今後も、そもそもの廃棄物を生み出さない努力を継続していただきたいと思います。

特集4の地域で根ざした活動は、企業市民として足元を固める活動です。そこで問われるのは「現場力」ですが、それぞれのエリア、サイトで、特徴を活かした活動を地道に継続していただきたいと思います。

特集5のJB環境ネットワーク会の活動はとて大切で、環境負荷の削減は、もはや一企業だけでは限界があり、このように他

企業とも連携を取り、広範なサプライチェーンを視野に入れて取組むことがますます重要なのです。ぜひこの会での活動が、実際の環境負荷削減につながるようリーダーシップを発揮され、メンバー企業を引っ張っていただきたいと思います。

PROFILE

東京都出身。エレクトロニクスメーカーで環境企画室長を務め、グローバルな環境戦略の立案、環境コミュニケーション、環境教育、環境会計等を担当。その間、経済産業省、環境省の委員等公職を多数歴任。2002年にジャパン・フォー・サステナビリティを立ち上げる。その後、大阪大学特任准教授、法政大学客員教授、東北大学大学院特任教授等を歴任。著書に「よくわかる環境会計」。環境経営、環境指標、CSR関連の論文、講演等多数。



「Japan Beverage Report 2016」を お読みいただき、ありがとうございました。 皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

本レポートは、ジャパンビバレッジグループの理念と事業の現状、
および環境の取組みをステークホルダーの皆様に関わりやすく
お伝えすることを目的に発行しています。

皆様からご意見、ご感想をいただき、
活動の内容や本レポートをより良いものにしていきたいと考えております。
つきましては、お手数ですが裏面のアンケートにご記入の上、
ファックスにてお送りいただくと幸いです。

2016年6月

本レポートに関するお問い合わせ先

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町2丁目272番地5

TEL:048-651-1166 FAX:048-651-6611

ホームページ <http://www.jbinc.co.jp>

「Japan Beverage Report 2015」のアンケート結果



全体評価

普通 50%
良い 50%

内容のわかりやすさ

普通 52%
わかりやすい 48%

ご意見(一部抜粋)

- 自動販売機の省エネについて電気ポットと比較している点がわかりやすかったです。そういう点はあまり知られていないと思うので、もっとアピールすれば良いと思います。
- リサイクルされた商品を社内・社外で販売や配布をして、認知度を上げられたいと思います。
- 様々な支店の取組みを知りたいです。

ご意見をふまえ、
内容をよりわかりやすくするため
右記の通り改善を図りました

◎自動販売機の省エネ対応については、もっと皆様に認識いただけるよう本紙、ホームページ、営業活動などで周知してまいります。

◎リサイクル製品については、ポリ袋をリサイクルした輪留めの使用を開始していますので掲載しました。

◎各支店での取組みを前回に引き続き掲載しました。

「Japan Beverage Report 2016」へ 皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

Q1 本レポートを読んでどのように感じられましたか。

- 全体評価 良い 普通 良くない
内容のわかりやすさ わかりやすい 普通 わかりにくい

Q2 本レポートのなかで関心のあった内容をお聞かせください(複数選択可)。

- ジャパンビバレッジグループの概要(p2)
 トップメッセージ(p3-4)
 ジャパンビバレッジグループの事業紹介(p5-6)
 特集1 グリーン・オペレーション-品質管理 徹底した品質管理のもと、お客様に安全・安心をお届けします(p7-8)
 特集2 グリーン・オペレーション-自動販売機オペレーション 安全に訪問、安心なサービスを皆様に提供します(p9-10)
 特集3 グリーン・オペレーション-廃棄物削減・リサイクル 廃棄物削減・リサイクルにより循環型社会を形成します(p11-12)
 特集4 各地域での活動 地域に根ざした独自の活動を進めています(p13-14)
 特集5 JB 環境ネットワーク会 JB環境ネットワーク会の取組み(p15)
 環境マネジメント&パフォーマンス報告(p16-18)
 第三者意見(p18)

Q3 ジャパンビバレッジグループの取組みについてのご意見・ご感想、良い点や改善すべき点があればお書きください。

Q4 どのようなお立場でお読みになりましたか。

- お客様 近隣住民の方 お取引先 政府・行政関係 教育・研究関係
 金融・投資関係 NGO・NPO 報道機関 企業のCSR・環境担当者
 ジャパンビバレッジグループの社員・家族 学生 その他()

Q5 あなたのプロフィールについてお聞かせください。

- 年 齢 10代 20代 30代 40代 50代 60代 70代以上
性 別 男性 女性

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー 環境部

FAX:048-651-6611



ジャパンビバレッジグループ

ホームページ <http://www.jbinc.co.jp>

●発行・お問合わせ先

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

〒331-0811

埼玉県さいたま市北区吉野町2丁目272番地5

TEL:048-651-1166 FAX:048-651-6611



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用した FSC 認証用紙を使用しています。